朝日新聞
2014年（平成26年）
3月20日
木曜日

ダウン症の書家 患者励ます揮毫

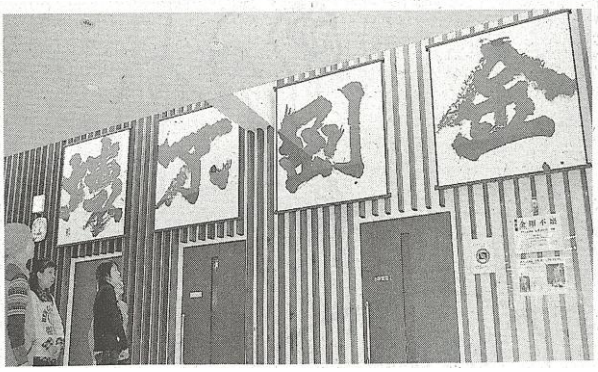
橋本のクリニックに

ダウン症の書家金沢翔子さんによる書「金剛不壊」が、橋本市岸上の紀和クリニックに展示されている。強い信念を込めた力強い大作に、クリニックを訪れた患者らは励まされている。

書は一文字の紙の大きさが縦横各1・4メートル。患者以外にも見てもらおうと、クリニック入り口近くの壁面へ10日に飾られた。

作品は、紀和病院・紀和クリニックを運営する医療法人南労会が金沢さんに揮毫（きごう）を依頼し、一昨年10月に高野山で開いた乳がん患者の集いの際に書かれた。金剛不壊とは、非常に堅固で決して壊れないことや、志を固く守って変えないといった意味があり、患者らに対し、壊れることのない強い信念を持って病気に立ち向かってほしい、との願いが込められている。

4年前に乳がんの手術を受け今も月1回通院している橋本市の女性（64）は「治療に対する固い決意をついつい忘れがちになるが、書を見て改めて頑張ろうと思いました」と話していた。



金沢翔子さんが書いた「金剛不壊」＝橋本市岸上の紀和クリニック

HASHIMOTO SHINBUN
高野山麓 橋本新聞

乳がん克服へ「金剛不壊」
～金澤さん揮毫の書展示

NHK大河ドラマ「平清盛」の題字を手掛けたダウン症の書家・金澤翔子（かなざわ・しょうこ）さん（28）が揮毫（きごう）した大作「金剛不壊（こんごうふえ）」が、3月11日、和歌山県橋本市岸上18の2にある医療法人南労会・紀和病院グループの紀和クリニック1階待合ロビーに展示された。

四文字は「強いものは壊れない」という意味で、同クリニックでは「当院の患者さんでなくても、この文字を自由にご覧ください」と言っている。この書は、平成24年10月、医療法人・南労会と高野山真言宗総本山・金剛峯寺の共催で開かれた「生命（いのち）の祈り～乳がんの集い～in高野山」で、大勢の患者からの希望を受けて、金澤さんが長さ60センチの筆で書き上げ、南労会・紀和病院に寄贈した。

「金剛不壊」の文字は、4枚の和紙（各縦1・9メートル、横1メートル）に、それぞれ一文字ずつ大書していて、その意味は「きわめて堅固で決して壊れない」こと、また「志を堅く守って変えない」こと。

この日、同クリニック1階待合ロビーの壁面に「金」「剛」「不」「壊」と、大胆に展示されると、ある女性患者は「頑張ろうというパワーをいただきました」と大喜び。

同病院の乳がん専門診療科・紀和ブレスト（乳腺）センター長の梅村定司医師（47）は「この文字から、病気と闘う人々がパワーと勇気をもらい、治療に専念する気力が湧いてほしい」と話した。梅村医師が代表を務める〝乳がんいのちプロジェクト〟は「乳がん患者の心の支えになるように」と、高野山金剛峯寺と協力して、高野山キャラクター「ピンクリボンこうやくん」を制作したり、慈尊院（九度山町）と協力して〝特大おっぱい絵馬奉納＆乳がんお守り〟を制作したりするなど、幅広く活動している。

写真（上）は紀和クリニック1階待合ロビーに展示された金澤さん揮毫の書「金剛不壊」。写真（中）は紀和クリニック玄関。写真（下）乳がん治療に幅広く活動している梅村医師ら。2014年3月12日